

平成15年度病害虫発生予察注意報第2号

栃木県農業環境指導センター 平成15年7月17日発表

作物名 : 水 稲 (早植栽培)
病害虫名 : いもち病 (穂いもち)

- 1 発生予想 発生量 多 い
- 2 発生地域 県全域 (中山間地)

3 根 拠

- (1) 7月14,15日の葉いもち調査では、発病ほ場率が37.0%で、前回調査より発病ほ場率が上がっている。(表-1)
特に、南那須・上都賀・塩谷・芳賀地域等の中山間地は、発病株率も高い。
- (2) 現在見られている病斑は停滞型が主体であるが、県中部の中山間地では進展型も見られ、上位葉への進展拡大や穂いもちの発生が懸念される。
- (3) BLASTM (アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測システム) による感染好適日が7月に入ってから各地で出現しており、今後葉いもちの発生がさらに増加すると予測される。
- (4) 天気予報は、向こう1週間は曇りや雨の降る日が多いと予想されており、梅雨明けが遅れると、穂いもちが発生しやすい条件になる。
- (5) 穂肥の時期に入り、葉色が濃くなるといもち病に感染しやすい状態になる。

(表-1) 葉いもちの発生状況

地 区	発 病 ほ 場 率 (%)	
	7 / 1,2 調 査	7 / 14,15 調 査
那 須	14.3 (14)	15.5 (71)
塩 谷	30.0 (10)	39.0 (77)
南那須	33.3 (6)	78.7 (61)
河 内	20.0 (10)	32.1 (56)
上都賀	25.0 (8)	51.2 (43)
芳 賀	41.7 (12)	37.3 (75)
下都賀	7.1 (14)	21.5 (65)
安 足	0 (4)	0 (14)
計	21.8 (78)	37.0 (462)

下都賀、安足地区は普通植栽培を含む。()内は調査ほ場数

4 対 策

(1) 葉いもちの防除

葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、現在発生が目立つほ場では、治療効果の高い薬剤(カスミン・ブラシン等)による防除を早急に行う。

(2) 穂いもちの防除 (下記のいずれかの方法で防除を行う)

粉剤、水和剤等による防除

防除適期は、穂ばらみ期(出穂7日前頃～前日)と穂揃い期(8～9割出穂した時)の2回である。

粒剤による防除

各ほ場の出穂期を把握し、出穂前の所定の使用時期に、遅れないように散布する。また、散布は湛水状態で行い、処理後4～5日は落水やかかけ流しをしない。

(3) 薬剤は、使用基準に基づき使用する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用を避ける。

(4) 葉いもちの多発しているほ場では、穂肥の施用を控えめにする。

(参考) いもち病に登録のある主要薬剤一覧

薬 剤 名	使用量 (10 a 当たり)	使用基準	
		収穫前日数	使用回数
(水和剤・乳剤)			
カスラブサイドゾル	1,000～1,500 倍	2 1日まで	5回以内
ノンプラスフロアブル	1,000 倍	2 1 "	2 "
フジワン乳剤	1,000 倍	1 4 "	3 "
ブラシンフロアブル	1,000 倍	2 1 "	2 "
(粉剤)			
カスラブサイド粉剤DL	3～4 kg	2 1日まで	5回以内
ノンプラス粉剤DL	3～4 kg	2 1 "	2 "
ビーム粉剤DL	3～4 kg	7 "	4 "
ブラシン粉剤DL	3～4 kg	2 1 "	2 "
(粒剤)			
アチーブ粒剤7	3～4 kg	出穂5～30日前	3回以内
オリゼメート粒剤	3～4 kg	出穂3～4週間前	2 "
コラトップ粒剤5	3～4 kg	出穂5～30日前	2 "
フジワン1キロ粒剤	1～1.5 kg	出穂10～30日前	3 "

カスラブサイドゾル・粉剤DL：5回以内(但し穂ばらみ期以降は4回以内)

ビーム粉剤DL：4回以内(本田期は3回以内)

詳しくは農業環境指導センターにお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012

<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/>